



HEKIYOUKAI

辟 雍

2018年 第15号

東京学芸大学辟雍会機関誌

辟雍 第15号

目次

会長挨拶	2
沿革	3
支部便り	4
支部連絡先一覧	13
卒業生から	14
インタビュー	26
辟雍会奨学金 学生の近県学校訪問	32
2018年度各部の活動	33
あとがき	34



photo: 井上録郎/Rokuro Inoue



本会は東京学芸大学の学部等の学生、
同窓生、教職員で構成されています



「夏の終わり」

2018年会長挨拶

馬淵貞利

このところ毎年のように異常気象が続いています。今年の夏も集中豪雨によって西日本各地が大災害に見舞われ、その後も至る所で記録的な暑さが続きました。こうした中で、私は7月末に青森県三戸地方の小学校英語の研修会に出席してきました。学芸大学英語科の粕谷恭子先生に小学校英語の指導方法について講演してもらうという研修会です。この企画は青森県支部からの依頼を受けて、辟雍会が仲介する形で実現しました。当日は、青森県東部の各地区から50名近い小・中学校の先生方が参加され、研究授業を踏まえた粕谷先生の実践的なお話に熱心に聞き入っておられました。そうした場に同席して、私は、大学と地域を結ぶこのような教育活動に辟雍会が関与できたことの意味を再認識させられました。今後の辟雍会活動を発展させていく大きな方向性のようなものを見出した気がしたからです。

ところで、今年は、現天皇の生前退位が本決まりとなって、来年の4月をもって「平成」という時代が終わる、いわば一つの「区切りの年」にもなります。この「平成」という時代が後世どのように評価されるか分かりませんが、同時代に生きる者の実感としては、バブルが弾け、右肩上がりの日本経済の成長が止まって、なかなかこの「停滞状況」から抜け出せないでいる時代でもありました。そのため、「失われた30年」という言葉すら時々耳にします。しかし、東京学芸大学にとっての「平成の時代」は、新課程の「教養系」が教員養成課程の「教育系」と併存する時代でもありました。この30年間に1万名を超える学生が「教養系」卒業生として輩出し、社会のさまざまな分野で活躍しています。当初、文部科学省では教員需要の調整機能を持つ教育学部内の1コースとして「教養系」を位置づける傾向が強かったのですが、大学の先生たちの熱意と情熱により、またそれ以上に「教養系」に入学してきた学生たちの意欲と努力により、「教養系」の存在は教員養成系大学に新たな活力をもたらす源泉となりました。

学芸大学にとって「教養系」が存在することは、まず第一に、高い専門的素養を持った教員の養成に弾みをつけたように思われます。文系・理系・実技系を問わず、一般の専門大学・学部に決して引けを取らない専門的素養の高さは、「教養系」の成立以前から学芸大学の特質であり、学芸大卒の教員の自負・自信を裏付けるものでもありました。そこに特色ある教育的専門



性をもつ「教養系」ができたことによって、学芸大学はいつそう内容の充実した大学になりました。事実、「平成の時代」に学芸大学のグレードがますます上がって来たことは万人の認めるところです。第二に、「教養系」の存在は、学芸大学に対する国際的な注目度も高めました。一時、留学生の数は500名を超えるほどの規模になり、大学間の国際交流も活発になって、「東アジア教員養成コンソーシアム」なども発足させることができました。そうしたことのすべてが「教育系」・「教養系」を問わず学芸大生の国際的感覚を養う上でとても有益であったと思います。社会のさまざまな分野で個性あふれる活動をしている卒業生たち、自国に帰って(あるいは日本において)多彩な活動をしている外国人卒業生たち、— 辟雍会は、卒業後、学校教員として活躍している人びととともに、こうした「教養系」出身者たちを含めた「オール学芸」の活動の場となる必要があります。そのための組織づくりも含めて、これからの辟雍会に課せられた課題は大きいと思います。

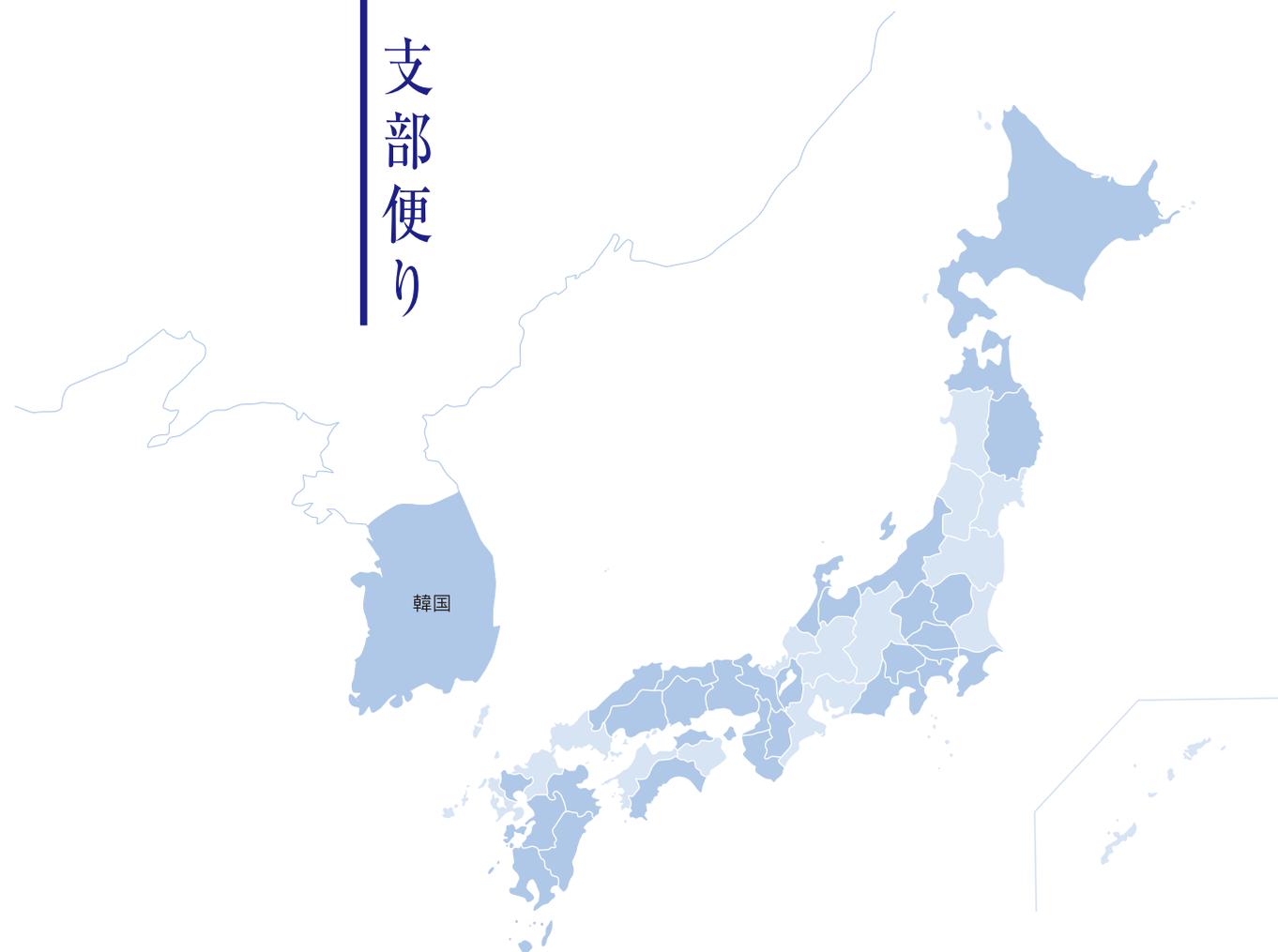
そつたく
「啐啄同時」……この難しい言葉は、かつて鷲山学長時代に学長室で耳にした言葉ですが、「啐」とは卵の中の雛が親を呼ぶ声(「雛が中から卵の殻をつつく音」という説もあります)、「啄」とは親鳥がコツコツと卵の殻をつつく音の意味で、その両方が同時に響き合った時に雛は卵からかえることができるということのようです。中国の宋代に編まれた禅宗の教本『碧巖録』の中にある言葉です。この言葉のポイントは、心の通じ合いというか、阿吽の呼吸というか、まさにその同時性にあり、「啐」と「啄」とが同時に行われることによって雛が無事かえることができるというわけです。この同時性の大切さという考え方を教育の場に適用して、教師中心でもなく、生徒中心でもなく、まさに両者の気持ちや能力がマッチした時に教育の効果が最大化されると言われています。つまり、教育の場においては、とりわけ教師にそうした「機」を察知する能力が求められていると言うことでしょう。このように「啐啄同時」とは理想的な教育・学習の在り方を示す言葉としても意味深長な言葉ですが、辟雍会の活動にも当てはめることができるように思えます。辟雍会支部と本部との間でも、辟雍会員と役員の間でも、そういう関係が成立するように活動していくことが望まれているように思えるのです。



沿革

- 2003.11.03 (平成 15) 「辟雍会 (東京学芸大学全国同窓会)」創立
荒尾禎秀会長就任
- 2003.12.07 (平成 15) 青森県支部設立
- 2005.07.02 (平成 17) 石川県支部設立
- 2005.08.22 (平成 17) 富山県支部設立
- 2005.10.01 (平成 17) 岩手県支部設立
- 2006.02.25 (平成 18) 千葉県支部設立
- 2006.04.01 (平成 18) 荒尾禎秀会長再任 (2 期目)
- 2006.10.01 (平成 18) 島根県支部設立
- 2007.06.24 (平成 19) 高知県支部設立
- 2008.04.01 (平成 20) 長谷川貞夫会長就任
- 2009.08.01 (平成 21) 北海道支部設立
- 2009.10.31 (平成 21) 東京学芸大学創立 60 周年記念シンポジウムを大学と共催
- 2010.04.01 (平成 22) 鷺山恭彦会長就任
- 2011.01.29 (平成 23) 岡山県支部設立
- 2011.02.27 (平成 23) 鳥取県支部設立
- 2011.03.26 (平成 23) 静岡県支部設立
- 2011.08.28 (平成 23) 新潟県支部設立
- 2011.10.30 (平成 23) 広島県支部設立
- 2011.11.26 (平成 23) 神奈川県支部設立
- 2012.04.01 (平成 24) 鷺山恭彦会長再任 (2 期目)
- 2012.08.17 (平成 24) 山梨県支部設立
- 2012.10.07 (平成 24) 鹿児島県支部設立
- 2013.07.27 (平成 25) 群馬県支部設立
- 2013.10.26 (平成 25) 近畿支部設立
- 2013.11.02 (平成 25) 「東京学芸大学辟雍会」と改称
本会創立 10 周年記念祝賀会開催
- 2014.03.15 (平成 26) 佐賀県支部設立
- 2014.04.01 (平成 26) 鷺山恭彦会長再任 (3 期目)
- 2014.06.15 (平成 26) 栃木県支部設立
- 2014.10.11 (平成 26) 熊本県支部設立
- 2014.11.08 (平成 26) 大分県支部設立
- 2015.05.31 (平成 27) 埼玉県支部設立
- 2016.02.20 (平成 28) 宮崎県支部設立
- 2016.04.01 (平成 28) 馬淵貞利会長就任
- 2017.09.14 (平成 29) 韓国支部設立
- 2018.04.01 (平成 24) 馬淵貞利会長再任 (2 期目)
- 2018.08.17 (平成 30) 香川県支部設立

支部便り



各支部の設立状況

番号	名称	設立年月日
1	青森県支部	2003.12.07 (平成15)
2	石川県支部	2005.07.02 (平成17)
3	富山県支部「獅子の会」	2005.08.22 (平成17)
4	岩手県支部	2005.10.01 (平成17)
5	千葉県(船橋)支部	2006.02.25 (平成18)
6	島根県支部	2006.10.01 (平成18)
7	高知県支部「高知辟雍会」	2007.06.24 (平成19)
8	北海道支部	2009.08.01 (平成21)
9	岡山県支部「岡山辟雍会」	2011.01.29 (平成23)
10	鳥取県支部	2011.02.27 (平成23)
11	静岡県支部	2011.03.26 (平成23)
12	新潟県支部	2011.08.28 (平成23)
13	広島県支部「広島辟雍会」	2011.10.30 (平成23)

番号	名称	設立年月日
14	神奈川県支部	2011.11.26 (平成23)
15	山梨県支部	2012.08.17 (平成24)
16	鹿児島県支部	2012.10.07 (平成24)
17	群馬県支部「群馬辟雍会」	2013.07.27 (平成25)
18	近畿支部	2013.10.26 (平成25)
19	佐賀県支部	2014.03.15 (平成26)
20	栃木県支部	2014.06.15 (平成26)
21	熊本県支部	2014.10.11 (平成26)
22	大分県支部	2014.11.08 (平成26)
23	埼玉県支部	2015.05.31 (平成27)
24	宮崎県支部	2016.02.20 (平成28)
25	韓国支部	2017.09.14 (平成29)
26	香川県支部	2018.08.17 (平成30)

北海道

辟雍会北海道支部の「第10回総会及び懇親会」が、平成30年8月4日(土)にネストホテル札幌駅前(札幌市中央区)において開催されました。

北海道在住の東学大同窓生相互の親睦を図るとともに、本道の教育及び文化の振興・発展に寄与することを目的として平成21年8月に設立された当支部同窓会は、毎年楽しく有意義な集いを積み重ね、今年で節目の10回目を迎えることができましたが、年々同窓生の輪を広げ、現在は84名の会員で構成されています。

総会は、会長挨拶の後、全国代表者会議報告、会計・監査報告、支部規約の確認、さらに次年度の開催日程(H31.8.3予定)等が了承されました。また、全道80余名の会員数に比して参加者数が10名前後で推移しているという現状を踏まえ、今後の会のあり方についても話題となりました。

続く懇親会では、全参加者(今年は10名を下回って9名)による近況報告や、母校の思い出話などでたいへん盛り上がりしました。今年も、「母校愛」、同窓生相互の想いを分かち合う貴重な時間となりました。なかには今年初参加の方もいらっしゃいましたが、毎年のご多分に洩れず様々なところでの「つ

ながり」が見られ、その後行われた二次会に至るまで、あっという間に笑顔溢れる時間が過ぎていきました。

本道の広域性も手伝って、上述の通り毎年10名前後という少ない参加者数が課題の一つではありますが、東学大にご縁のある方の講演会や北海道を地盤に頑張る栗山監督の応援企画など、今後の充実発展に努めて参りたいと考えています。

末筆ながら、辟雍会の益々の発展と会員の皆さまのご健勝をご祈念申し上げ、今年度の北海道支部報告とさせていただきます。

辟雍会北海道支部 事務局長 中村雅之(昭和53年卒)



青森県

平成30年7月29日の日曜日、八戸市にて総会、懇親会を実施しました。総会の中で、三戸地方教育研究所主催の外国語活動の授業技術研修講座について報告がありました。これは本会員が中心になって企画したもので、東京学芸大学の粕谷恭子教授を講師に、小学校の英語教育について講演、指導をしていただいたものです。たくさんの教員が参加して多くを学び、とても有意義な時間であったようです。

懇親会は15名の参加で行われ、初参加者も複数いてとても盛り上がりました。在学中に知り合い、結婚を機に福島から青森に来た先生や、先輩から声がかかって参加した方など、確実に会の輪が広がっています。また先日は初めて卒業生から加入に関する問い合わせがありました。平成

15年に辟雍会最初の支部としてスタートした青森県に、新しい風が吹いています。

青森県支部事務局長 里村 輝
(平成10年N類生涯スポーツ科卒)



平成30年7月29日 八戸にて

栃木県

辟雍会栃木県支部は、「栃木の教育・文化・スポーツを支援する東学大同窓生の楽しい懇親会」として、平成26年6月15日に設立しました。毎年の支部総会・懇親会は、宇都宮市内で開催しています。参加者は、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育界で活躍されている先生方はもちろん、市役所、教育委員会、市会議員、刑務官、蕎麦屋さんなど、様々な領域で活躍されている栃木県内に住む学芸大の卒業生・修了生です。和気あいあい、楽しい、おしゃべりの花を咲かせています。

また下記のように2018年度の支部総会・懇親会を行いました。

日時:2018年10月06日(土曜)18:00から

場所:チサンホテル宇都宮1階

内容:2017年度栃木県支部活動報告・2018年度支部活動計画等。

昨年度立ち上げた「日光いろは坂女子駅伝大会」で、「東京学芸大学チームを応援する会」は、2018年度から

「日光いろは坂女子駅伝大会」が廃止になったため、「応援する会」も廃止します。別の行事の立ち上げを検討中です。

かしわせしやうご
辟雍会栃木県支部代表 柏瀬省五

E-mail:shogoka@ca3.so-net.ne.jp



辟雍会栃木県支部総会 2017.10.8

埼玉県

昨年度の秋の研修会は小江戸川越の歴史探訪と題して企画しましたが、台風の直撃を受け中止となりました。数少ない支部の活動であり大変残念な思いをしました。

本年度の総会は時期が定まらず延び延びとなり、7月7日(土)に川越市の山村学園高校を会場に開催しました。参加者は8名と本年度も少人数でした。

首都圏では地方と違って人間関係(出身大学)が多様化しているためか、「卒業してまでも先輩と後輩の関係を引きずりたくない。辟雍会も情報交換の選択肢の一つにすぎない。」といった意見が聞かれます。

これらの意見を踏まえて総会時では、新人の確保(辟雍会名簿の閲覧)、高校籍者が多いので義務教育籍者への働きかけを積極的に行うとともに、教育関係以外の方々へも口コミで辟雍会の存在を周知していく。そのためにも活

動内容を魅力あるものにする努力を怠ることなく、他支部のような気楽な会合を多く開催していくことを確認しました。

第二部の研修会は、昨年度台風で中止になった小江戸川越の歴史探訪を行いました。漣聲寺、時の鐘・蔵造りの街並み、菓子屋横丁、大正浪漫夢通り等々、小江戸川越の歴史と浪漫を満喫しました。

大学からは教員採用試験対策の論文指導や面接指導の依頼が来て対応しています。また、近県学校訪問事業の依頼も来ていますが、個人的な関係での対応に留まっています。今後は、道徳教育、生徒指導、アクティブラーニング、小学校での英語教育等々、支部の教育力を学生に還元できるように、協力の輪を広げていきたいと考えています。

事務局長 阿部博之

千葉県

千葉県支部は、船橋市やこの近隣の市町村に在住または勤務する卒業生の団体です。現在の会員数は34名で、県内の教職員や学校管理職の方、企業にお勤めの方、すでに退職され今でも教育に携わっている方など職種も年齢も様々になっています。毎年、市内から県内へと情報を伝達して会員の和を広げ、会員数を増やそうと考えています。

主な活動である定期総会懇親会では、会員の年齢差に関係なく、在学当時の思い出や卒業後から今日までの状況、近況報告などを交換しています。また、諸先輩からは、若手の会員の方々の悩みを受けたり、将来に対するアドバイスもおこなったりしています。

大学卒業後は、それぞれが社会に独り立ちしていくわけですが、将来に対する希望など、上司に相談する前にアドバイスを受けると言ったケースも出てきました。

今年も秋に船橋市内で定期総会を予定していますので、多くの皆様の参加をお待ちしています。県内には、私たち千葉

支部とは別に高校の管理職を中心とした先生方の団体もあります。千葉支部へ入会希望の学生諸君は、下記の連絡先でお待ちしています。

千葉県支部事務局長 石井康雄

(現在 船橋市立金杉台小学校長)

自宅住所:船橋市前貝塚町1010-18

電話番号:047-438-9380(自宅)

:047-448-3876(勤務先:金杉台小学校)



神奈川県

1) 活動状況

神奈川県支部会では、毎年1回の総会を開催しています。会員は様々な分野の方々のご講演を通して、多様化した社会にて生きるを学んでいます。その後、食を共にし和合の懇親会も開催しています。神奈川県支部は常に、①小学校現場での若い先生の悩みを聞く機会 ②現場を踏まえた、0歳からの教育の継続性について確かなものにする具体的策の提供 ③各種の研究の実情理解などです。2018年11月17日には、「多文化交流」というテーマで、卒業生の本多秀吉先生から、実習を含めてお話を伺うことになっています。

2) 今後に向けて

産休育休あけての現場への復帰は、LGBTの認識と理解は、虐待とは、教育とは、をもう一度見直し、人として生きるを互いに認識し合い共に生き合う環境づくりの場にします。

そのために神奈川支部として横浜市や川崎市、そして「獅子の会」の組織と連携し取り組んで参りたいと切望しています。そして、幼・小・中・高・大の連携を密にし、様々な分野での生き方を共に学び合う場の充実に向けて参ります。今年度はJAXA(宇宙航空研究開発機構)相模原キャンパスの視察研修、たまプラーザ國學院大學キャンパス内でのBBQ(食して語り合う会)、多文化交流の学びの現場視察研修をして参ります。



富山県

富山県の「獅子の会(辟雍会富山県支部)」は、昭和50年頃に、数名の仲間の不定期な集まりから始まったそうです。その後、平成2年に規約と名簿を作成して以来、毎年集まって親交を深めています。8月末の総会・懇親会が主な活動です。現在、県内在住の名簿搭載者は約300名となっています。

平成29年度も8月26日に総会・懇親会を開催しました。26名の参加者を得て、盛大に開催することができました。会は、事務局からの連絡の後、すぐに懇親会です。参加者は年代もばらばらですが、サークルが同じだったり下宿が近所だったり、不思議なもので、同じ年代を同じキャンパスで過ごしたということだけで共通の話題が生まれ、旧知の間柄のように話が弾みます。大学の特性上、教員が多いのですが、テレビ局の方や議員等職種も様々で、参加者全員が、あの日に戻れる貴重な場となっています。

会の締めくくりは、いつも参加者全員が輪になって「若草もゆる」を歌います。学生時代にはほとんど歌うことがなかった

この歌を、この会に参加することで覚えたという方もたくさんおられます。

私たちは、これからもこの会の絆を大切に、少しずつ仲間の輪を広げながら、末永く会を育てていきたいと思っています。

獅子の会(辟雍会富山県支部)
事務局 草野 剛(平成2年国語科卒)



石川県

毎回冬に開催していましたが、第12回懇親会を夏に開催しました。記録的な猛暑が続く中、16名の会員が集まり、「辟雍」の意味を改めて確認し合うことができました。

自分は、「学問の奥義を究め、互いに切磋琢磨する」大学生を送っていたと豪語する会員もあり、教職に就いた者も、別の道を歩んでいる者も、昭和生まれも平成生まれも、和気藹々のうちに、会は盛り上がりを見せました。

懇親会の後半には、恒例となった学生歌の合唱。恥ずかしながら、メロディーの一部を忘れかけていた四代目会長の私でしたが、今回はユーチューブで検索し、「若草もゆる」を練習して臨んだ甲斐があり、仲間と声を合わせて歌いきることができました。

平成30年の金沢は、大雪で始まり、猛暑に悩まされていますが、北陸新幹線開通の年から観光客が増え続け、小都会化してきています。逆にこの新幹線を利用して、懐かしの武蔵小金井まで行きたいと思っはいるのですが、なかなか思

いが叶いません。この懇親会で語り合うひとときが、学生時代にタイムスリップしている貴重なひとときとなっています。

辟雍会石川県支部 会長 新村裕二
(昭和58年A類国語科卒)



第12回懇親会より

静岡県

8月18日(土)、平成30年度静岡辟雍会総会並びに講演会を開催しました。今回は、東京学芸大学辟雍会から丹伊田敏副会長が出席してくださいました。丹伊田副会長から辟雍会韓国支部の設立、学生派遣事業等、東京学芸大学辟雍会の現況を伺いました。

講演会の講師は、近年、静岡辟雍会にかかわりのある方をお願いしています。今年も、昭和52年A類国語科卒で全国学校図書館協議会(全国SLA)の調査部長をしていらっしゃる磯部延之さんに「学校図書館の現状と課題」と題してお話しいただきました。内容は、公共図書館と学校図書館の違いといった基本的なことから「学校図書館ガイドライン」、「障害者差別解消法」への取組み、「学校司書のモデルカリキュラム」、「学校読書調査」の結果など多岐にわたりました。その中に一貫して流れていたのは、児童生徒が自ら考えること、教員がさまざまなものを関連付けて深く考えることの重要性です。学校図書館を切り口に現在の教育の課題について、体験を交えながら丁寧にお話しくださいました。

静岡辟雍会の会員数は、現在、85。およそ半数を現職の教員が占めています。今回の講演会は、学校現場に役立つ情報を提供しようという意図から学校図書館にかかわる内容にしました。11月には、文学散歩を計画しています。参加して良かったと思える事業を息長く続けていきたいと考えています。

文責 静岡辟雍会事務局長 勝田敏勝



総会のようす



高知県

高知県内には60名程の学芸大出身者が在住し、年に1回程度懇親会を開催し親睦を深めております。平成30年3月28日(水)、19:00より葉山にて第6回東京学芸大学辟雍会高知支部の同窓会を開催しました。平成27年9月以来の久しぶりの同窓会でした。

今回は、“柚村誠(副支部長)さんの日赤高知支部の退職祝い”、“西緑さんの「改組新第4回日展」特選のお祝い”と称しそれを酒の肴に同窓会と言いながら懇親会を開催しました。

高知県に在住されている方で、この「支部だより」のスペースを読まれた方は、支部長の宮地か事務局の中山のメールアドレスまたは携帯電話まで連絡をいただきたいです。

懇親会の案内をさせていただきますのでよろしくお願い致します。和気あいあいとした和やかな会です。

支部長 宮地彌典(1973年度卒 D類保体科)
TEL:090-5911-5088

メールアドレス:m-hirosuke@miyajigakuen.jp

副支部長 柚村 誠(1977年度卒 D類保体科)

宇賀孝篤(1988年度卒 A類保体科)

事務局 中山泰志(1990年度卒 D類数学科)

TEL:090-4976-9220

メールアドレス:k_kobun4769@docomo.ne.jp



岡山県

平成30年1月27日に第8回東京学芸大学岡山辟雍会を開催しました。最近ではホテルでの開催が続いていましたが、久しぶりに発足会の時に利用させていただいた岡山市の「アカバナ」で開催しました。年々参加者が少なくなり14名の参加でしたが、学生時代に戻り、共に過ごした小金井の地での思い出話に花を咲かせました。特に本年は、昨年開催した際に話題になった学芸大への植樹について、ご報告することができ、皆様方に大変喜んでいただきました。植樹に際しては、「岡山県木の松と醍醐桜」を昭和57年度卒の林野高校片山哲也先生が手配していただき、無事に送ることができました。そして、東京学芸大学辟雍会事業部長の荒川悦雄先生にご尽力いただき、ホームカミングデーに若草研究所にて、植樹式を挙行していただきました。その後、北門の通りに松を、辟雍会事務所前に醍醐桜を移植していただいたとのことでした。

皆様なかなかお忙しく、小中高大のそれぞれの行事もあり、日をあわせるのが難しい状況です。皆様のご意見

をお聞きし、できるだけ大勢の方が参加していただける時期に会を開催できるように、尽力していきたいと思っています。

昭和36年度から平成29年度までの卒業生たちが、次回平成31年2月9日(土)午後7時から同所での再会を確認し、名残惜しくも盛会のうちに会が終了しました。

事務局長 宰相裕一さいしゅうひろかず



佐賀県

支部人数は、現在は16名(2018年8月現在)です。構成メンバーは、教育関係者が12名、マスコミ(テレビ局)4名になります。年齢層が若いというのも佐賀支部の特徴かもしれません。県外に転勤されているマスコミの方々も、定例会に駆けつけてくださり、近況報告をマメに行なっております。

活動は年に数回支部会を開催し、それぞれの業界の話題に花咲かせながら、佐賀の地酒を飲み交わしています。また今年はドイツからバルーンドライバーのライセンスを持っているメンバーが戻ってきましたので、熱気球に搭乗しての交流会も企画しています。

新しいメンバーもたくさん加わり、いろいろな業種が混

ざった佐賀支部です。これからもいろいろな可能性に挑戦したいと思います。

佐賀支部事務局長 小松原修



大分県

平成26年11月に大分辟雍会が設立されてから今年で記念すべき5年目を迎えることとなりました。昨年度は1月27日にアリストンホテル大分において第4回総会を開催したところ、15名の同窓生が集い、交流を深めることができました。

辟雍会事務局からも昨年に引き続き、2名のご来賓として、馬淵貞利会長様と清水研司総務副課長様をお迎えし、大学の現状や近況、辟雍会が目指す新たな取組についてのお話や本支部が進むべき発展的な活動へのご示唆をいただきました。

毎年欠かさず参加しているの方々にとっては、1年に1回の再会ですが、その間の出来事について語り合うことで心が温かくなったり、久々に参加されたの方々にとっても、懐かしさをふり返ったりできる貴重な時間となりました。お互いの近況を交流し合ったり、大学時代の思い出を語り合ったりすることで、さらに親睦を深めることができました。

本年度、初めて参加された方が大学時代の若々しかったころ硬式野球部で活躍されていた様子やエピソードを楽しく語っていただけたことや若い会員の方々が新役員として

加わっていただけたことが今回総会の成果物となりました。短い時間ではありましたが、会員の皆さんが今住んでいる郷土の話題へと花開かせ楽しいひと時を過ごすことができました。会員数も若い方々を中心に年々増加傾向にあり、とても活気づいています。

他支部の皆様も、是非「おんせん県おおいた」で温かな魅力を発見してみませんか。

辟雍会大分県支部会長 瀬口卓士
(現在 豊後高田市立香々地小学校校長)



韓国



辟雍会の最初の海外支部となる韓国辟雍会(辟雍会韓国支部)の創立式が平成29年9月14日、韓国の国立ハンパツ大学で行われました。それに先立って、辟雍会本部の馬淵貞利会長や役員団の方々は、韓国辟雍会役員が在職する祥明大学(ソウル)及び松谷大学(江原道・春川)を訪問し、大学側との国際協力案について懇談されました。韓国辟雍会創立式には馬淵会長が参加され、辟雍会のこれからのグローバルな活動や教育協力案についての抱負を述べられました。

韓国辟雍会は、東京学芸大学に留学した韓国の学校・大学教員5名で役員会を構成し、日韓教育ネットワークの構築や韓国における辟雍会活動への支援体制の構築を目指しています。すでに、このような組織の整備と並行させて日韓両国の教育現場を結ぶ実践的な教育活動をスタートさせました。2018年夏に、曹圭憲理事が祥明大学と連携して祥明大学生の日本研修(2週間)を実施しました。また、辟雍会推薦の高校生2名(附属国際中等学校生と宮崎県



支部推薦の生徒各1名)をソウル教育大学の韓国語・韓国文化短期留学プログラム(10日間)に招待し、東京学芸大学生を含む日本の大学生らとともに韓国語や韓国文化を学ぶ場を提供しました。この高校生たちは、プログラム活動の一環として忠南サムスン高等学校(サムスン電子設立)を訪問し、現地の生徒たちと習いたての韓国語を駆使して楽しく交流しました。韓国辟雍会では、このようなグローバル教育プログラムを辟雍会本部や各支部と連携して推進するとともに、2020年までに日韓の修学旅行や教職員研修などが実施できるように協力・支援していきたいと考えています。

作成:曹 圭憲

(韓国辟雍会理事・国際協力本部長・祥明大学助教授)

連絡先:金 範洙

(韓国辟雍会会長、東京学芸大学国際担当特命教授)

メールアドレス:bskim77jp@yahoo.co.jp/

president@jai.or.jp(両方をお願いします)



東京学芸大学辟雍会支部連絡先一覧（2018年8月現在）

●北海道支部 連絡先 中村雅之

TEL: 090-2874-2945 E-mail: m-nakamura1125@outlook.jp
「カムバック・サーモン! 北の大地(北海道)は、皆さんの凱旋を待ってまーす。」

●青森県支部 連絡先 里村 輝

TEL: 090-8781-7482 E-mail: satomura-akira@m05.asn.ed.jp
「学芸大青森キャンパスでは、同窓生が楽しく友好を深めています。夢の続きを青森で。まずは連絡ください。」

●岩手県支部 連絡先 日野澤明彦

E-mail: ptf62-akihiko-h@iwate-ed.jp
「故郷岩手での皆様のご活躍に期待しています。バスケットボールで岩手を元気にしよう。」

●栃木県支部 連絡先 柏瀬省五

TEL: 0284-62-6229 E-mail: shogoka@ca3.so-net.ne.jp
「栃木県教育・文化・スポーツを支援する楽しい懇親会です。栃木に来たら連絡してね!」

●群馬県支部 連絡先 須永 智

TEL 090-7849-1059
「お互い、情報交換をして、日々の活動に役立てましょう。夏に懇親会を予定しています。」

●埼玉県支部 連絡先 阿部博之

TEL: 048-862-6857 E-mail: h-abe618@xa2.so-net.ne.jp
「本音で語り合える同窓生のネットワークは強い味方です。是非ご連絡を!」

●千葉県支部 連絡先 石井康雄

TEL: 047-438-9380 E-mail: ishaso.fuki@gmail.com
「千葉県在住の同窓生は、ぜひとも千葉県支部へ加入してください。若い力が必要です。」

●神奈川県支部 連絡先 原 英喜

TEL: 090-9800-5831 E-mail: hhara@kokugakuin.ac.jp
「世界に夢を!そして、国内でも夢を!苦労を語る仲間、同窓生のいることを忘れずに。」

●山梨県支部 連絡先 河野みな子

TEL: 090-4731-5660 E-mail: jk47w6@bma.biglobe.ne.jp
「会員の輪をさらに広げ、楽しく集いたいと思っています。気軽に連絡くださいね!」

●新潟県支部 連絡先 埴 佐敏

TEL: 025-257-4436(動) E-mail: hanawa@nuhw.ac.jp
「若けいあねさん、あにさん、越後に掲げし獅子の星座の旗のもとで、おめさんがたをまってるで!」

●富山県支部[獅子の会] 連絡先: 上市町立上市中央小学校 草野 剛

TEL: 076-472-2222 E-mail: kusano-tsuyoshi@tym.ed.jp
「富山では280人以上の方ががんばるとるよ。富山に戻るときには連絡しられ。まっとうちゃ。」

●石川県支部 連絡先 新村裕二

TEL: 090-5689-5618 E-mail: shinmura_yuu@city.kanazawa.lg.jp
「ふるさは、あなたの帰りを待っとるよ。新幹線かがやき号で帰ってきまっし!」

●静岡県支部 連絡先 勝田敏勝

TEL: 090-7046-6228 E-mail: katsuta-t@vc.tnc.ne.jp
「若いしゅう田舎でいっしょにやらまいか!」

●近畿支部 連絡先 木野康裕

TEL: 079-420-0100 E-mail: kino@aigaku.gr.jp
「『よーし、明日から、また頑張るで!』のエネルギーを持って帰って頂ければ嬉しい限りです。いつでもご連絡ください。」

●鳥取県支部 連絡先 武田基資

TEL: 0858-22-2037 E-mail: takeda_mt@mailk.torikyo.ed.jp
「砂丘も大山も三徳山も、あなたの帰りを待っとるで。県人会発足30年、今年も集まります。まずはご連絡を。」

●島根県支部 連絡先 玉林尚之

E-mail: tamarin511@sky.megaegg.ne.jp
「まめでおっちゃんさい。若い力まっちょーけん!」

●岡山県支部 連絡先 幸相裕一

TEL: 090-3746-8807 E-mail: hy-tnk@mx1.tamatele.ne.jp
「ざっくばらんな会です。岡山に帰ったら、気軽にご連絡ください。」

●広島県支部 連絡先 田中信也

TEL: 090-4806-7177 E-mail: s_tanaka@hiroshimaymca.org
「広島に戻ったときはぜひ連絡を。個性豊かな先輩たちがお待ちしています。」

●香川県支部 連絡先 原 彪(たけし)

TEL: 090-8699-3434 E-mail: st-hara1128@ma.pikara.ne.jp
「今年から支部に加盟しました。ぜひさぬきうどんを食べにきてください。」

●高知県支部 連絡先 中山泰志

TEL: 090-4976-9220 E-mail: k-kobun4769@docomo.ne.jp
「高知県出身の方はもちろん、県外の方、暖かい高知県の教員になってください。連絡をおまちしています。」

●佐賀県支部 連絡先 小松原修

TEL: 090-1089-8832 E-mail: samukomatsubara@yahoo.co.jp
「教育に携わる卒業生とマスコミに携わる卒業生でがばい調和がとれています。バルーンに乗って同窓会してます!」

●熊本県支部 連絡先 藤田まり子

TEL: 096-357-9417(熊本市立力合小学校)
E-mail: fujita.marikoB@city.kumamoto.lg.jp
「阿蘇に負けん!パワーと、天草の海のごと綺麗な心で、熊本の学校を元気にするためにがんばるとるばい!」

●大分県支部 連絡先 瀬口卓士

TEL: 090-9070-2962 E-mail: seguchi-takuji@oen.ed.jp
「日本一の温泉県大分でまっちょるけん!卒業したてのわけえ先輩も入れて35名のみんなが仲いいけん!連絡してな!」

●宮崎県支部 連絡先 村中田博

TEL: 090-8831-8076 E-mail: hm110629@gmail.com
「みんな誰かとつながっちゃって、てっげなおもしりっチャがー。ひったまがるわ。連絡しないよー。待っちゃるよー!」

●鹿児島県支部 連絡先 雲井未敏

TEL: 099-285-7766
「鹿児島では、桜島が毎日噴煙を上げています。その力強い始動は鹿児島全ての同窓に届いているはず。支部の和も同じように広がってほしいと願っています。」

●韓国支部 連絡先 金 範洙(キン ボン ス)

TEL: 090-6106-0493
E-mail: bskim77jp@yahoo.co.jp bskim77@u-gakugei.ac.jp

【これまでに設立された辟雍会の道県支部では、皆さんからの連絡を待っています】

◎「新しく支部を設立したいとお考えの方、その他お問い合わせは<東京学芸大学辟雍会事務所>へお願いします。

卒業生から

来し方

辟雍会 副会長 山本 一雄

子供のころからマット運動や跳び箱、鉄棒などが好きで、中学・高校からは体操競技をやってきました。学芸大学入学時に男子体操競技部は全日本の一部(12校)の下位にありました。当時は、まだ現役選手として世界で活躍されていた長澤靖夫先生にご指導いただきましたが、弱練習という日はあっても全休という日はほぼ無く、授業を休む(?)ことはあっても体育館に行かない日は無い、という毎日でした。夏に行われる全日本学生選手権試合で12位、つまり最下位になると二部の優勝校と入れ替えになるため、「一部死守」が至上命令でした。そのため全日本戦に向けての練習は大変ハードで、試合前には身体はふた回りほど細くなっていました。幸い大きな怪我もなく、入学直後の新人戦から始まり、その後の公式戦・非公式戦等すべての試合に正選手として出場させていただき、何とか4年間一部を守って競技生活を終えることができました。これは、先生と諸先輩、同輩、後輩諸君のお力ではありますが、私にとってはとても大きな勲章だと思っています。



Kazuo Yamamoto

1

卒業後は高等学校の教師になるつもりでいましたが、先輩の例をみると高校教師の採用は当時非常にきびしく、卒業間際に非常勤がようやく決まるというケースも多く、不安に感じていました。そんな中、大学4年の4月に父を亡くした為、早く就職を決めて母を安心させたいと思うようになり、民間企業数社を受験しました。当時は売り手市場でもあったためすべて合格し、早々に就職を決めることができました。

就職後5年間は営業職で、東京、上諏訪、札幌、松本と点々としました。そのころに「健康産業」というカテゴリーが生まれ、大学時代に勉強した運動生理学が生かせる分野と思い、その道に進むため東京に戻りました。幸い大学時代にお世話になった木庭修一先生のご紹介



で社会体育の指導者として入職することができました。

1989年に、やはり大学時代に運動生理学ゼミでご指導いただいた小野三嗣先生から、「清水建設が新規事業としてフィットネス事業を開始しており、社会体育の現場を知っている人間を紹介して欲しいと相談されている。君が適任と思う」とのご連絡をいただきました。清水建設の当該部署の責任者と面接して採用が決まり、以後退職までの22年間、保健・医療・福祉関連施設のコンサル部隊管理職として従事してきました。

辟雍会は、「地域、職業、年代を超えた、学芸大学に関係したすべての人が集まり睦みあう会」という趣旨で2003年11月に創立されましたが、その準備段階で、私が民間企業に在籍しているという理由で招集されました。会としてゼロからのスタートでしたので、当初は決めていくべき事があまりに多く、会合も頻繁に、長時間にわたって行われたのが今となっては懐かしく思い出されます。

創立時に理事を拝命し、翌々年池田義人先生が急逝されたため幹事長をお引き受けし、その後副会長を任命され、今日に至っております。重責を全うできていな

いと自覚しつつ、早や15年が過ぎ去ってしまいました。

創立時より辟雍会の目標のひとつに「(仮称)辟雍会館の建設」という項目がありました。清水建設に在籍していた私は、この目標のために呼ばれたのかな、などと思いましたが、当初はまさに夢物語でした。時を重ね、現在は会として対外的にも認知されつつあり、大学や他の機関と協力できれば、夢が現実となり得る可能性がひらけてきています。

あらためて私の人生を振り返ってみますと、今日あるのは学芸大学を卒業できたからこそであり、お世話になった先生方や諸先輩方等には心から感謝しております。

辟雍会の活動は近年多岐にわたってきましたが、微力ながら母校への恩返しの気持ちを込めてできる限り尽力したいと思っております。併せて多少なりと社会に貢献できるよう、ボランティア活動のお手伝いに励んでいる今日この頃です。

1970(昭和45)年卒業 D類保健体育専攻

卒業生から

挨拶について 考えたこと

武蔵野大学 帝京大学大学院 客員教授 森 富子

私は現在、二つの大学の教育学部で、主に、教職実践演習や教育実習などの授業を受け持っている。他にも、生活科や理科などの教科指導法も担当しているが、前期を教えて印象に残っているのは、この教職実践の授業でのことである。

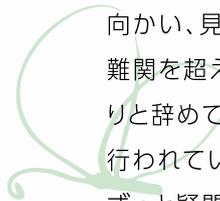
3月まで、渋谷区の教育委員会教育長として、毎年4月には、新しい教職員一人一人に、辞令を渡すが、特に新規採用の教職員には、一年間しっかりとお願いをしたいという気持ちを込めて手渡していた。しかし、この2、3年は、新規採用教員が、短期で辞めてしまうことが続いていた。中には、特例ではあるが、4月1日に採用されて、3日に辞表を提出してきた実例があった。本当に残念だった。

新規採用者は、4月1日の時点では、多少の緊張はあっても、採用されたことはとても嬉しそうであった。それもそうである。教員という道を選び、大学での教育実習を無事に終えて、正式な教員に採用されるまでは、何度も繰り返される採用試験に根気よく立ち向かい、見事に合格しているからである。これだけの難関を超えて採用されているにもかかわらず、あっさりと辞めてしまうのは、いったいなぜだろうか。大学で行われている授業とでは、何が違っているのだろうか、ずっと疑問だった。

この春から大学にお世話になったことで、気づいたことが二つあった。一つは、大学でも、各学生に教員採用まで、採用試験の内容、教育実習の前や後で出てくる様々な困難や心の葛藤に、丁寧に対応していることである。このことは、大学の教職センター等が、一番力を入れているということがよく分かった。自分自身が大学生の時にはなかったことで、今の教員養成系の大学では、多くの大学で、丁寧に行われている。



Tomiko Mori



大変素晴らしいことだと、今学期実践してみて、改めて思っている。

二つめは、教職実践課程を履修している学生であっても、挨拶がうまくできない学生がいるという現状である。授業の始めと終わり、校内で会った時、廊下ですれ違ったときの挨拶である。もちろん、日常の大学生活の中で、学生から丁寧な挨拶があることも多く、さすがに、教員を養成している大学だと思うこともある。しかしである。それでも挨拶ができない学生がいる。その学生にも採用試験のためには、しっかりと挨拶の練習をさせるのではあるが、大いに心配である。

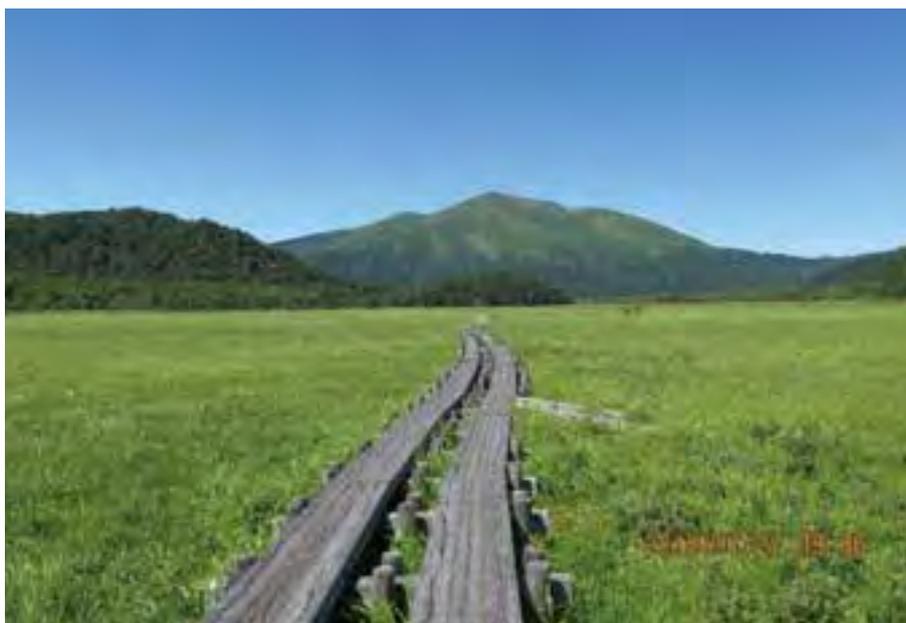
挨拶は、何を始めるにも、基本の姿勢ではないかと私は思っている。それは、今までの小学校教員としての経験と習慣でもある。人と接することや話すことの苦手な人間が、世の中にはいるのだということはわかってはいたが、教員を目指す学生の中にもいるということに驚いた。多くの学校・園要覧、校長や園長の経営方針の中には「挨拶は基本です。挨拶のできる子供を育てます。」という言葉が必ず存在し、教員も、

自分の自己申告書には、挨拶については、一番の重要事項として書いているはずである。

このような教育をしっかりと受けてきたはずの今の大学生の現実には、歩いていても、授業の前でも、注意しなければ授業中でも、携帯やスマホ、PC画面に夢中になっていたり、耳にイヤホンを入れていたり、自分の世界に入り込んでいる学生が何人もいる。これは、何も学生だけではない。電車やバスに、駅で電車を待つときに、大勢の大人も子供もおこなっている行為である。この先の不安を心配しているのは、考えすぎだろうか。

そんな中で「おはようございます」「こんにちは」と挨拶をして教室に入ってくる学生がいると、嬉しくなる。未だに、就職してすぐに辞めてしまう疑問は解けてはいないが、私が担当している学生には、繰り返し挨拶の大切さを話し、どこにでも挨拶ができる人として、社会に送り出したいと決心している次第である。

1976(昭和51)年卒業 A類理科選修



卒業生から

ふたつの母校の新しい伝統

成蹊中学・高等学校校長 跡部 清

「これから出会う子どもたちのために、今は自分を磨きなさい」—これは教育実習時、いい教員になるために必要な経験を尋ねた私に、附属世田谷小学校の先生がおっしゃった言葉である。簡単に答えを得ようとする心を見透かされ、何とも恥ずかしい思いをしたが、今は、いただいたその言葉の意味がよくわかる。

学生時代は“むぎのこ”に所属し、地域キャンプや運動会の企画や手伝いをしていた。半年以上も中心となって準備してきたキャンプ当日が台風予報と重なり、子どもたちの期待や自分たちの思いより参加者の安全を優先するという当たり前の選択を、泣きながら行った日のことを今も時折懐かしく思い出す。

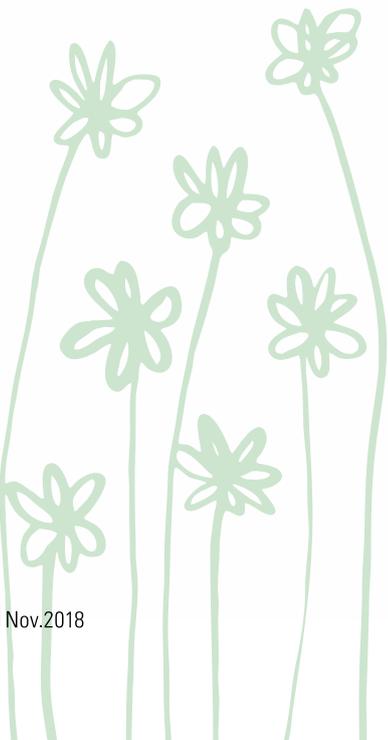
教育界は今、黒船以来の変革期と言われる。高大接続改革やAIとの共存などの言葉だけが独り歩きし、今までの教育の在り方全てが否定されているかのような不安を抱く保護者たち。職人気質で変化に弱く、時に不安な表情を見せる教員たち。しかし、不安なときほど今までの道のりと行く先をしっかりと見つめ、正しい情報と、単に教えるだけでなく「人を育てる」という視点を忘れずにいたい。それこそが不易流行の「不易」の部分であろう。

教育は種まきと水やりの連続である。結果やコストパフォーマンスばかりを重視する経済論理の活動とは、全く逆に位置する活動だと私は認識している。個々を大切にすることが原則で、成果などはすぐには出ないし、芽すら出ないかもしれない。それでも10年後、20年後を信じ、どんな花が咲くのかを楽しみに待ち、社会で頑張るその子の姿がイメージできれば、日々の大変さも楽しみに変えられる、そんな気の長い活動であるはずだ。

信念をもつ者は強い。信念があれば、どんな環境



Sayaka Atobe





成蹊学園けやき並木・夏

にあっても、迷わず人の役に立つ生き方を選択できる。私は勤務校の創立者中村春二からそれを学んだ。だから今、信念の種である「価値観」を育てるべく、中高生を相手に微力ながら力を注いでいる。

学芸大卒業後、縁あって母校成蹊中学・高等学校に勤め、今年で33年目。成蹊の創立記念日は3月23日。年度末の半端な日を創立記念日にしたのはには理由がある。この日、隣接した豊島師範学校の寮からのもらい火で、4月開校予定の新校舎が全焼したのである。焼けた校舎を前に中村はこう話したという。「教育は建物ではない。教える者と学ぶ者の心が通えば、たとえ野原にいても教育はできる」一当時を知る者は、この日こそが、それまで弱かった中村に、不屈の精神を与えた瞬間だったと語る。豊島師範学校といえば、学芸大学の前身でもある。私にとっては、母校からのもらい火がもうひとつの母校に強さを与えたという、何とも不思議な縁を感じてならない。

私学は、創立者の熱い建学の理念、それを受け継ぐ教員集団、支える保護者や卒業生、体現しようと努力する生徒たち、この多様な存在の4者が同じ方向を向けたときに、新しい風を孕み、どんなに古い学校で

も、新しい伝統を創り出せるのだと私は信じている。

成蹊も帰国生を受け入れて今年でちょうど100年目。保護者のニーズに合わせるだけでなく、生徒たちの将来をイメージしながら、留学先を広げたり、アカデミックアドバイザーやライティングリューターを置いたり、日々進化を続けている。学芸大もまた、大きな進化の過程にあると伺っている。ふたつの母校がともに新しい伝統を築きながらさらに発展を続けていくことを、卒業生のひとりとして、心から願っている。

1985(昭和60年)年卒業 A類国語選修
2003(平成15年)修了 大学院修士課程国語教育専攻

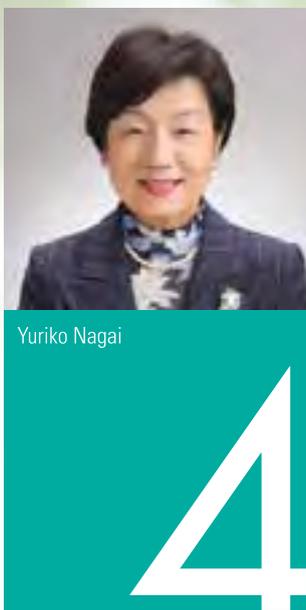


スウェーデン国際カルマーレ高校理事長・校長とともに

卒業生から

幼稚園科同窓会「たんぽぽ会」の今

松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科
教授 永井由利子



現在私は、幼稚園科同窓会「たんぽぽ会」の会長をさせていただいております。このたび、辟雍会馬淵会長様が6月の総会研修会においでくださった折に、辟雍会にも幼稚園科同窓会の取り組みをご紹介したかどうかとおすすめていただきました。そこで、皆様に代わって、幼稚園科同窓会の活動や現在の取り組みなどについて、少し述べさせていただきます。

この幼稚園科の同窓会は昭和26年の1回生から65回生の現在に至るまで大学院生を含めて1530名を超える会員数となっております。全国にたんぽぽの綿毛散ってそこで根を端して頑張っている同窓生をイメージし、「たんぽぽ会」という愛称をつけました。6月の総会は、附属幼稚園竹早園舎を、12月の研修会は小金井園舎をお借りして、継続してきております。附属幼稚園の先生方も同窓生が多く、参加する卒業生にとっては、いずれかの園で教育実習をしていますので懐かしい園でもあります。1年に1回附属幼稚園を訪れることは、いろいろな環境を見せていただき勉強にもなります。今年度も、6月の総会の時には第1回目の研修会を行い、学校法人武蔵野東学園第一・第二幼稚園園長加藤篤彦先生に「一人一人が輝くために～写真を生かして学びを伝える～」のテーマで、ご講演いただき、全員が感動に包まれました。12月には、遊び歌作家の福田翔さんをお迎えして、「一緒に 遊ぼう 歌おう」～あそび歌の心を架け橋に～を実技研修として計画しております。このように年2回の研修を役員の皆様のお力を結集してずっと続けてきております。現職の幼稚園教諭・保育士だけではなくお孫さんや子供さんを連れ

てきてのふれあい実技も楽しんでまいりました。

今、同窓会ではひとつの転機を迎えようとしています。それは、今まで大学院生がボランティアで受け持っていた庶務を、このたび、大学院の制度が変わることもあって、事務局を附属幼稚園に置かせていただくこととなりました。来年度からは担当して下さる庶務の人をアルバイトでお願いするようにならなくなっていきます。今まで大学院生のボランティアに支えられてきた部分が多かったのですが、学部から直接大学院に進む今までの大学院がなくなり教職大学院に統合されると伺っております。残念なことです。幼稚園科の大学院では、学部生のみならず外部から入られた方も

含め大勢の大学教員を排出しており、日本の幼児教育を支える立場の方々が多くいらっしゃいます。大きな役割を果たされてきているにもかかわらず、なぜ消えるのか、予算の問題なのか、幼児期の教育が今こそ大切であるという時代に学芸大学幼稚園科の大学院がなくなってしまうことはとても残念なことです。しかしながら、これからも幼稚園科同窓会「たんぽぽ会」は同窓生の力となれるよう、幼児教育の研修を目指してまいります。

1974(昭和49)年卒業 E類幼稚園卒業



6月の総会・研修会の記念写真

卒業生から

世界自然遺産推薦地の現場から

環境省奄美自然保護官事務所
自然保護官補佐 高橋周作

私は現在、様々な動植物が生息・生育し、豊かな自然環境を有している”奄美大島”にアクティブレンジャーとして環境省奄美自然保護官事務所に勤務しています。主に「国立公園・世界自然遺産業務」と「環境教育(普及啓発)業務」を担当し、世界自然遺産登録に向けて忙しい毎日です。元々秋田県出身の私が奄美大島で働こうと思ったきっかけは、学生時代に参加したインターンでした。島人(しまんちゅ)になって2年。世界自然遺産推薦地の現場から奄美大島の魅力を紹介します。



Shusaku Takahashi



■生命(いのち)にぎわう亜熱帯のシマ～森と海と島人の暮らし～

2017年3月7日、日本で34番目となる「奄美群島国立公園」が誕生しました。国立公園とは、「日本を代表する素晴らしい自然が残っている風景地」を指します。奄美大島には、日本で2番目の面積を持つマングローブ林やシイ・カシで覆われた亜熱帯照葉樹林、海岸部にはサンゴ礁が発達しており、島の至る所で自然豊かな景観を楽しむことができます。また、アマミノクロウサギを始めとする数多くの希少種・固有種が生息していることも魅力です。私のオススメは「日本で1番美しいカエル」と呼ばれるアマミシカワガエル



日本で1番美しいと呼ばれる「アマミシカワガエル」



奄美大島:油井岳展望台からの眺望

ル。溪流付近に生息しており、黄緑色の地色に金属光沢のある金紫色の斑点が背中全体に入るのが特徴です。初めて見たときは、こんなカエルがいるのか! と非常に感動しました。その他にも、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類など数多くの生物が生息している生物多様性が奄美大島の魅力の1つです。ここではすべてを紹介することは出来ませんが、ぜひ自分の目で奄美の生き物を観察しにご来島ください!

■環境教育の実践

業務では、大学での経験を生かして小学校～高校の出前授業も担当しています。「一方的な教授ではなく、共に学ぶ時間になるように」自分がフィールドワークをする際に、心がけていることです。例えば、昆虫を観察した時に、子ども達を感じることは実に様々「かっこいい」「気持ち悪い」「触りたい」「ちいさい」。子ども達の反応を見て、伝え方を変えてみたり、さらに深い知識を教えてみたり、自然環境に関心・興味を持たせるためにどのようにすればよいか試行錯誤は続きます。また、奄美大島は自分達が住んでいるすぐ近くに貴重な動植物が生息している恵まれた環境を有していることから「自分の住んでいる地域、島に誇りを持たせる」といった点も「奄美大島で環境教育」を行う際は重要だと感じています。人と自然環境の橋渡しを担うインタープリターとして、「まずは自分自身が楽しむ!」休日のほとんど

は森か海に飛び出しています。ナイトツアーも普段は見る事が出来ない生き物の表情が観察出来、好奇心がくすぐられます。

■世界自然遺産登録に向けて

現在、奄美大島は徳之島、西表島、沖縄島北部(やんばる)を合わせた4島で世界自然遺産の登録を目指しています。ただ、今年5月にIUCN(世界自然保護連合)から「登録延期」の勧告を受けました。それを受け、今回の推薦は取り下げ、推薦書の見直しを行った上で再推薦することになりました。遺産登録は最短で2020年となります。今後は、外来種対策や国立公園の管理・運営、希少種の保護など様々な課題を地域住民、県、国が一体となって取り組むことが求められてきます。

最後に、世界自然遺産登録は”ゴール”ではありません。そして、観光を目的として登録するわけでもありません。貴重な奄美・沖縄が誇る自然環境を次世代まで引き継いでいくため、残していくために遺産登録を目指しています。アクティブレジャーの任期は残り1年半、これまで吸収してきた知識と経験を生かし、奄美大島の自然を守っていく1人としてこれからも携わっていきたいと思います。以上、世界自然遺産推薦地の現場からでした。

2017(平成29)年卒業 F類環境教育専攻

卒業生から

一卒業生の願いを叶えてくださった 辟雍会に感謝

三戸町立斗川小学校 教頭 竹原まり子



私が勤務しているのは、青森県南にある全校児童42名の学校です。10年程前に町内の小中学校が一貫教育校となり、1年生から英語を勉強する等、町独自の教育課程を組んでいます。当初は町内に赴任した教員が各教科に振り分けられ、小中9年間を見通した指導について相談しながら進めていました。そんな中、私は一番苦手な英語に関わることになってしまい、逃げ腰でした。しかし、三戸町での勤務が長くなるにしたがって、あれこれ考えなければならぬ立場になってきました。

さて、私が青森県の同窓会に参加するようになったのは、高校時代からの友人の誘いがあったからですが、他には知っている方もいないので、ずっと敷居の高さを感じていました。それが、何年前か、苦手な英語のお陰で一気に変わりました。私は、大先輩と隣の席になって、仕事の話の流れで英語の指導で困っていることを話しました。その方は、特別支援がご専門でしたが、東京の友人が英語の指導に詳しいからと、わざわざ連絡をしてくださいました。すると、ご友人からすぐにたくさんの資料が届き、私が抱えていた問題の解決のために大変参考になりました。先輩方の優しさがありたく、それ以後、同窓会へ参加する気持ちも軽くなりました。

2017年8月11日、青森市で辟雍会青森県支部総会・懇親





会がありました。私は、近況報告も兼ね、種市哲青森県支部会長に三戸町の英語教育の話をしていました。その中で、今後のことも考えて小学校英語を最先端で牽引している粕谷恭子教授を迎えて研修会を行いたい…と夢物語をしていました。すると、せっかくだから同窓会本部の方々に言ってみたらいいだろうということになりました。何故ならこの会に馬淵貞利辟雍会同窓会長、山本一雄副会長、高野和夫学芸大学総務課基金事務室室長がいらっしゃったからです。懸念材料が様々あり、自分の中でもまとまった話ではなかったのですが、粕谷教授に是非ご指導いただきたいのでご支援くださいというようなことを直訴しました。本部の方々とお話させていただき、県の大先輩方からアドバイスをいただいているうちに夢が現実になりそうな雰囲気を感じ、帰り道の2時間ばかり、いい気分で運転したのを覚えています。

夏休み明けには、支部会長のお計らいで、三戸地方教育研究所所長に、粕谷教授を迎えて英語の研修会を開催したい旨を伝えることになりました。一年後かその後か、ゆくゆくは…と悠長に構えていた私は急展開にドギマギしていましたが、既に支部会長から所長にある程度経緯が伝わっていましたので、研修会についてご検討いただけることとなりました。漠然としたイメージだったのが、三戸地方教育研究所主催で英語の指導法について研修会を行うという方向性が見えてきて、研究所の指導主事にもご協力いただきながら企画することになりました。9月中に粕谷教授からも嬉しいお返事をいただくことができました。二月も経たないうちに、ここまでこぎつけたことにただただ驚くばかりでした。

2018年7月25日、本校で授業技術研修講座を開催しました。「新学習指導要領のもとでの小学校外国語活動・外国語の授業の在り方」をテーマに、4年生の[Let's Try! 2]、6年

生の[We Can! 2]を使った公開授業の後、粕谷教授にご講演をしていただくという日程でした。小学校教員だけでなく、中学校英語科教員、大学生等の参加もあり、小中連携の上でも意義のあるものとなりました。また、授業後、粕谷教授から直接2名のALTにもアドバイスをいただきましたので、ALTにとっても貴重な研修の機会となりました。粕谷教授は、午前・午後合わせて3時間にわたるご講演の中で、書かせるタイミングやワークシートを使った写し書きの指導、何度も聞かせるための仕掛け、英語の歌を使った強弱のつかませ方等、具体的な指導法とその効果、意図を教えてくださいました。これまでも何度か粕谷教授のご講演を聴いたことがありますが、毎回新しい学びがあります。何より粕谷教授の軽妙ながら勢いのある話しぶりに引き込まれてしまいます。研修会のアンケートの中に「これまでの英語の研究会の中で一番すっきりした。」というコメントがありました。正に私が粕谷教授のご講演を初めて聴いた時の感想と一緒にでした。参加者全員がよいと思える研修会もなかなかないと思いますが、今回は粕谷教授のご講演を聴いて、誰もが「面白かった。勉強になった!」と言った研修会でした。粕谷教授を迎えての研修会開催のための糸口を探していた時に、辟雍会同窓会本部の方々が青森県の同窓会にいらっしゃったというこのご縁!同窓会の事業として研修会を後援していただけることとなったのは、地方で勤務する者として心強い限りでした。県支部の大先輩方にも研修会終了後まで様々ご配慮いただきました。多くの方に陰に日向に支えていただいていたことも後で知り、今更ながら同窓会のすばらしさを感じています。たまたまそこに居合わせた田舎の小さな学校に勤務する一卒業生の願いを受け止め、叶えてくださった辟雍会の皆様、そして、背中を押してくださった県支部の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。

1990(平成2)年卒業 A類国語選修

学芸大学に「日本文化ゾーン」を — 造園業 三上常夫氏インタビュー —



学芸大学の正門を入ると、すぐ左手にこじんまりとした日本庭園があるのをご存知の方も多いかと思う。「飯島和庭園」と名付けられたこの庭園のいわれについては、すでに『辟雍』5号で前会長の鷺山先生が紹介されているが、どんなコンセプトのもとにこの庭が作られているかは良く分からなかった。そこで、直接この庭を作庭された方に聞いてみてはという話が持ち上がり、広報部長の小澤一郎さんとともに、小金井市の「はけ」下にお住いの三上常夫さん宅を訪問し、お話を伺うことになった。2018年7月4日のことである。以下、この日のインタビューの内容をまとめたものである(文責:馬淵)。

馬淵 本日は、学芸大学の飯島和庭園を造っていただいた三上さんに、作庭のコンセプトや何かを伺おうと、やってまいりました。お忙しいところご迷惑をおかけいたしますが、どうかよろしくお願いたします。

三上 はい。先日連絡をいただいてから、うちで保管しているものを調べてみたら、こういうものが一式残ってありました。ここにあるのが基本的な設計意図ということで、最初に提出させてもらったものです(資料1/27頁)。ここにもちょっと書きましたが、要するに、一番手前に同窓会館があって、その次が弓道場で、奥に茶室がある、あの一角を、芸術館なども含めて、できれば「日本文化ゾーン」にするという一つの提案を、大学としてお持ちになったらいいのではないですか、ということです。

馬淵 それは大変興味深いお話ですね。日本庭園は、その一角というわけですね。

三上 はい。ですから、弓道場も、いちおう理想からすれば土塀か何かをつくって、あの一角を囲ったらということで、こんな作図もしてみました(資料2/28頁)。

馬淵 これはまた雰囲気がありますね。こんなふうにできるといいですね。

三上 ええ。こんな感じで弓道場の塀がくれたらいいかなと思ひましてね。そうすると、まさにあそこが「日本文化ゾーン」になります。学芸大学は先生になる人が多い大学ですから、みなさんが日本の文化というものをきちっと理解される場になればと思ったのです。

馬淵 それはとてもいいお考えですね。

三上 あそこには松の木もありますので、既存の木を生かす庭をつくらう、ということにしました。庭園の石とか橋とかは、



インタビューする馬淵会長

設計意図

日本庭園の設計計画にあたり、貴重な緑を活かし既存緑地との違和感の無い庭とする事を強く意識し計画をしました。

日本庭園といっても様々な庭があり京都風の仏教・精神的な表現を重視した庭から、江戸風の遊遊式の庭園を色々な角度から楽しめる庭まであり、今回は、校内の既存植物・既存風景を重視し回遊式とし、枯滝・枯流れの色々な景色を楽しめる庭としました。



枯滝・枯流れを景色構成の中心に置き、飛び石・延段で全体のつながりと景色の広がり表現しています。

問題は現在の一面の雑草ですが、現実的に考えても雑草を抑えることは無理と考えるので草原の中の庭と考え、季節の野草(キキョウ・オミナエシ・アザミ・カワラナデシコ等)を移植して雑草と共に気持ちの良い空間にします。

枯滝

滝口を含め3段の水層で立体感のある流れとし、途中に石橋と沢渡り石・州浜により流れの中に変化をつけ、流れの縁には景石を必要にして最少の石組みを施し、広さを優先した景色造りをし、気持ちの良い空間を構成したいと思います。水の表現は築石または砂利敷きにより表現し、石の下には防草シートを敷き詰め流れの中への雑草の進入を防ぎ、流れの流末には大雨に備え透水ピットを設け自然浸透により雨水を土に戻します。

延段

建物前の延段は既存テラスと庭とのつながりを無理なくするためと、自由な移動を可能にします。

移植・植栽

既存樹木は極力移植して活かし、新植は数本の樹木と地被植物とします。

資料1

滋賀県の大きな家を解体するというので、そこから運んだものです。全部が全部ではないのですが、送ってもらった写真の中から良さそうなものを選んで回してもらいました(資料3/28頁)。近江商人の邸宅の庭石かも知れませんね。それから、これは日本庭園を造っている最中の写真です(資料4/29頁)。当初、このベランダ(同窓会館の建物から扇形にせり出したところ)は計画になかったんです(資料5-1/30頁)。最初はここまで庭だったんですよ。建物のテラスから庭を眺めるようにと計画したものですから(資料5-2/30頁)。

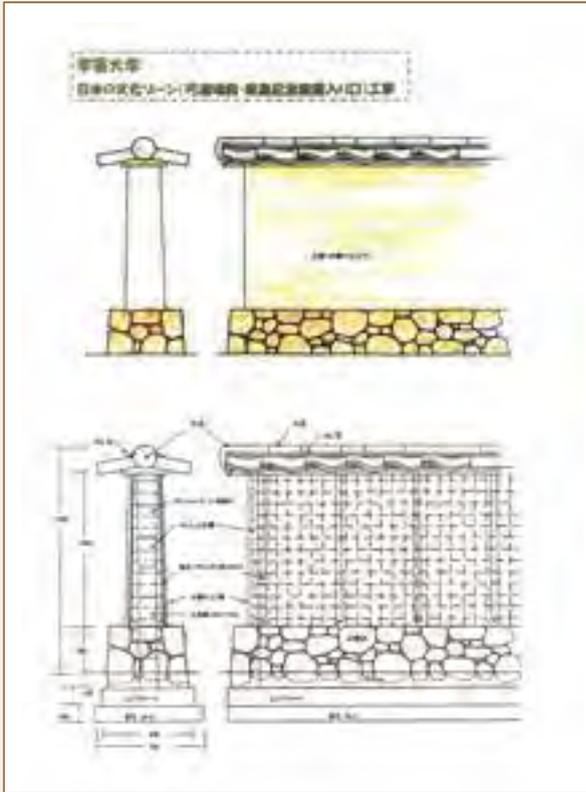
馬淵 この写真(資料4/29頁)では石組みがもうできあがっていますね。ここが枯山水で。

三上 そうです。これが、造っている過程です。

馬淵 最初にそういう形で石を置いて、それから少しずつ形を整えていくという感じですか。

三上 はい。それで土を。メンテナンスのことを考えますと、水を張ると今度は水を流す処理が大変なものですから、水を使わない枯山水にしようということをやったんです。

馬淵 できあがった庭には本当にきれいなコケが植えられていましたが、それがいまほとんどなくなってしまいました。コケというのは、相当きちんと手入れをしないと



資料2

駄目ですね。

【三上】 そうですね。特にあそこは表の塀を直したでしょう。あれで風通しがよくなってしまって、余計にコケにはよくないんです。コケというのは、湿度が伴わないと難しいんです。京都なんかのコケがきれいなところで、風が吹き抜ける場所はないでしょう。木がいっぱい茂っていて、風が吹き抜けないような。

【馬淵】 そういうところでないともコケは育たないんですか。いまのようになっていると、コケは育ちにくいのですね。

【三上】 はい。最初に植えたのはスギゴケです。京都でも多いんですが、環境が合わないと、今度は別のコケが侵入して、スギゴケに取って代わったコケの庭になるんです。それは管理次第ですけどね。ですから、日本庭園というのは、できあがったときはある意味でスタートなんです。竣工がスタートなんです。

【馬淵】 コケが変わっていくというのも、自然の成り行きですか。

【三上】 そうですね。京都へ行っても、全部同じコケではないのです。微妙な環境の変化でも、コケの種類が変わりますからね。

【馬淵】 ところで、この庭の中心は、やはり石組みの滝のところですか。

【三上】 はい、そうです。滝から建物に向かっていって、今度は左側のベランダへ出てきますね。あの先から見るのが一番メインになります。

【馬淵】 モミジの木の下あたりから眺めるといって感じですか。

【三上】 はい。そこまで行かなくても、終わりのほうから、滝の方面がまともに見えるようになってきますから、それがメインになります。あとは全体を見ようと思うと、ベランダのところですか。あそこから滝口も見えし、一番奥のほうも見えます。

【馬淵】 そうすると、あのベランダのある場所は重要ですね。

【三上】 ただ、残念ながら、あの位置が少し変わりましたので。

【馬淵】 ところで、最近、庭の木が何本か枯れてきました。木が枯れるのも、自然にそうなるということでしょうか。



資料3



資料4

【三上】 イヌツグか何かですね。木も生きものですから、寿命がありますし、環境が悪ければ寿命が短くなります。前にも申しましたように、ソメイヨシノの寿命は通常60年と言われていますが、弘前のものは100年たってもびくともしていません。環境次第ということですね。ただ、庭の基本は滝や石組み、飛び石や延段です。これは何年たっても変わりませんから。

【馬淵】 でも、木々の姿は変わっていくのですね…。石組みのまわりに、いくつか背の低い木が植わっていて、これがボーボーになってしまったので少し剪定しました。石が見えなくなってしまって、これはちょっとまずいなと思ってやったのですが、やはり、石組みが大事なんですね。

【三上】 京都へ行くと、文化庁が管轄している日本庭園などは、やれ文化財だ、やれ国宝だといううさいます。たとえば秀吉の奥方のお寺で、私の知り合いが管理している高台寺なんかでも、「これは石が浮き上がって格好が悪くから、目土を少し盛ってはどうか」といったら、「文化庁で許可されない」と言うんです。石は絶対に動かせませんが、土も安易に触れないんです。

【馬淵】 厳しいんですね。

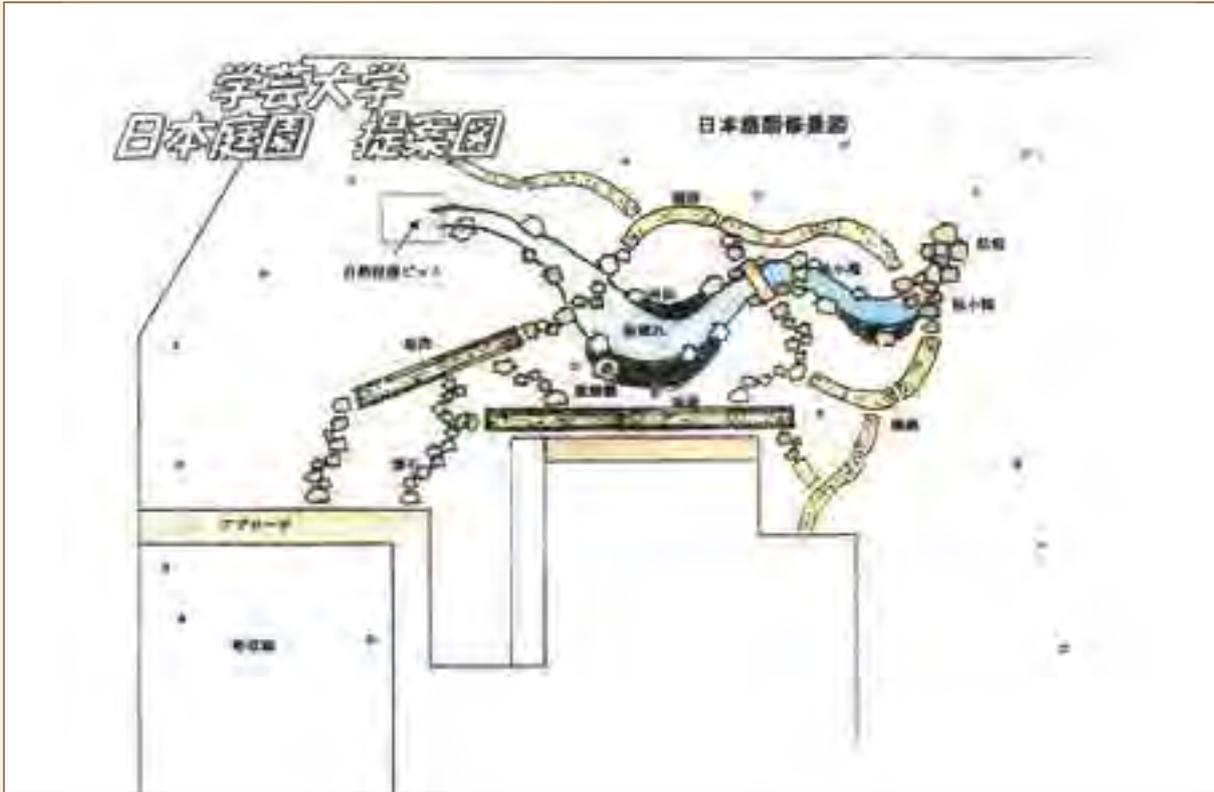
【三上】 ところが、長い間に雨で流れたりしますから。石を生けるような形で最初に土を盛るわけですが、それが流れてしまって、石のあまり見せたくない部分が露出してしまっているわけです。それを、「土を入れてごまかせ」と言ったのですが、「文化庁がうるさいからできない」と、そんな言い方をするんです。

【馬淵】 でも、庭をつくる方からすれば、そういうところの手入れも必要なんですね。

【三上】 そうです。石を据えるというのは、関東の植木屋さんは石を大きく見せようとして、ギリギリまで上へ出すんです。そうすると、石は必ずしも三角形ではありませんから、中には下の方へ窄(すば)まっていくものがありますが、角度が外へ開いている形で据えておかないと駄目なんです。

【馬淵】 安定しないということですか。

【三上】 もちろん見た感じの安定もそうですが、開いた角



資料5-1

度で埋まっていれば無限大ということです。ところが少しでも両側が窄む形になったら、その先に交点ができてしまい、石の大きさが分かってしまうわけです。ですから、メンテナンスも大事ですね。京都では、お寺と植木屋が何代もの付き合いでメンテナンスをしていますよ。

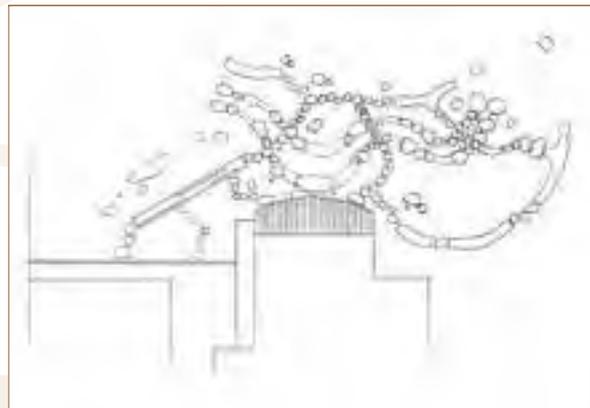
【馬淵】 京都のお寺は、契約をしている植木屋さんがあるのですか。

【三上】 はい。ですから、それなりの植木屋が入っていれば、任せっきりですよ。もちろん、坊さんもよく勉強していますけれどね。私が昔京都にいた時につくづく感じたのは、いいものをいいと評価する目を持った人が京都にはたくさんいるということです。私もプロが見て「なるほどな」と納得できるような仕事をするようにと、よく言われました。今でも茶道のほうでは、千家十職といって、茶碗の楽家など、それぞれの分野で目利きのいい職人さんたちを抱えています。ああいった人たちがより研鑽を積んでレベルを高めているわけです。ですから、いいものというのは、つくったものが完成ではなくて、完成即スタートなんです。よりいいものにしていくために不断の研鑽があるわ

けです。だから、わびとかさびなんてものは、完成直後にはありませんよね。

【馬淵】 大学はどんどん人が入れ替わってしまいますから、そういう形で伝統を維持していくことがなかなか難しいですね…。

【三上】 ですから、ここでも提案したように、あそこをきちっと学芸大学の「日本文化ゾーン」にして、「ここは日本文化ゾーンなんだよ」といって、何年かけてもいいから、大学のコンセプトをきちっと継承していくと良いんですよ。



資料5-2



現在の庭園

【馬淵】 そういうことをきちんとおけば、何らかのつながりができていくということですね。…胸に刻んでおきたいと思います。最近、よく近所の方などが子連れで来られて、「きれいな庭ですね」といって覗いていかれます。そういう人たちのためにも、この庭をなんとか維持していければと思います。

【三上】 あと残されているところは建物の西側部分ですね。こちら側はまだ手を付けていないんですよ。

【馬淵】 はい。手つかずの状況です。

【三上】 私は、「弓道場の方からもこの庭を散策する方法がありますよ」という考えなんです。せっかくの庭ですから、なるべく多くの人に見てもらえるようにね。

【馬淵】 そうですね。この辺は、いま草ボーボーの状態で、手入れに苦労しています。弓道場はいま、活発に使われていて、国分寺市の弓道会の方が連日たくさんいらしています。大学の弓道部も活発に活動していて、毎日相当な数の人が出入りしています。

【三上】 ですから、脇を歩くときに、さっきの土塀のようなものがあれば、これはまさに弓道場らしいと。

【馬淵】 この一角全体を「日本文化ゾーン」という形で。

【三上】 そうですね。大学の中にここに匹敵するような場所は、あまりないでしょう。

【馬淵】 はい。ここは大学にとって大事な場所です。庭を造っていただいてからもう10年になりますが、誰かが常にその維持を心掛けていかないと駄目なので、それが辟雍会の役目の一つかと考えています。

【三上】 そうですね。

【馬淵】 貴重なお話を聞かせていただいて、本当にありがとうございました。

東京学芸大学辟雍会奨学金

昨年度から始まった辟雍会の奨学金制度です。

今年度の給付実績（カッコ内は昨年度）：奨学金A 24名（32名）、奨学金B 1名（0）
（備考）

1. 申請対象者

奨学金 A（新入生）：東京学芸大学の入学時に、奨学金募集年度の春学期授業料全額免除を認められた者のうち20名程度。

奨学金 B（在学学生）：東京学芸大学在学中に家計急変等により、就学困難な状態に立ち至り、緊急支援奨学金の給付が認められた者。*緊急支援奨学金：日本学生支援機構又は東京学芸大学の緊急支援奨学金

2. 給付及び給付額

この奨学金の給付は在学中一回限り都市、給付金を返還する必要がありません。

給付額 奨学金 A：一律5万円（辟雍会の正会員でない場合は、正会員になることを条件とする。）

奨学金 B：一律2万円

学校教育系学生の近県学校及び関係機関訪問

昨年、東京学芸大学と連携協力した標記の事業が行われました。これは学生の教員就職希望者への教職への動機づけを強化するために、大学より本会に協力を要請された企画です。東京近県の支部と連携して実施された内容は以下の通り。いずれも、大学の先生とともに本会の教育関係の会員が引率しました。（詳細は本会ホームページ参照）

1. 埼玉県（富士見市立つるせ台小学校）

2017年9月21日実施。3名の学生が参加。学校説明・授業参観・施設見学等。

2. 東京都（多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校）

2017年9月27日実施。6名の学生が参加。学校説明・授業参観・施設見学等。

3. 神奈川県（座間市立相模が丘小学校）

2017年10月5日実施。3名の学生が参加。学校説明・授業参観・施設見学等。

4. 静岡県（掛川市の学校等）

2017年10月5日と6日の2日間コース。7名の学生が参加。第1日目は掛川市立中央小学校・同市教育委員会・同市立東中学校・浮世絵・美術館夢灯。第2日目は教育関連施設として掛川城天守閣、美術館、大日本報徳社を訪問。

なお、この企画は今年度も10月に実施されました。実施コースは埼玉県（富士見市立諏訪小学校、東京都（多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校、文京区立茗台中学校、江東区立小名木川小学校）、神奈川県（座間市立東原小学校）です。これについても詳細は本会ホームページを参照してください。

2018年度 各部の活動

総務部

総務部は次の6項目を柱に、全体的な連絡調整を行っています。

- 1 全国代表者会議、理事会、幹事会等の開催
- 2 東京学芸大学との連絡・調整の実施
- 3 既存の卒業生組織等との交流(総会・新年会等)
- 4 新規会員の入会手続き及び名簿管理業務等
- 5 機関誌、予算書、決算書、事業計画等の発送
- 6 規則等の整備・見直し

懸案になっていました会員に対する支援の一環として、平成29年度から、経済的理由により就学困難な学芸大学学生に対する勉学費の一部支援を目的として、奨学金制度を設けています。

(総務部長 佐藤 守)

会計部

会計部は予算の作成及び執行を中心に次の活動を行っています。

- 1 2018年度予算の計画
- 2 予算の適正かつ効率的な執行
- 3 的確な会計事務の実施

(会計部長 佐藤節夫)

広報部

広報部は次の3つを中心に活動しています。

- 1 機関誌『辟雍』第15号の発行
- 2 ホームページの管理と充実
- 3 広報リーフレットの作成

1は機関誌です。2のホームページは随時更新しています。広報用のリーフレットは今年度版を作成します。

(広報部長 小澤一郎)

組織部

昨年度に引き続き、会の組織拡大に努めました。

(事業部長 荒川悦雄)

①支部設立事業は、昨年度9月14日韓国支部の設立に引き続き、本年度は8月17日に香川県支部が設立いたしました。さらに、岐阜県、愛知県、山形県、秋田県、宮城県、福岡県支部設立に向けての準備が進められています。さらなる支部設立実現に向けて、組織部内の組織づくりを進めています。

②未加入の新入生に対し、6月28日に500通の入会

依頼文を郵送いたしました。新規に36名の会員が入会されました(9月20日現在)。今後も学生、卒業生への加入を勧めてまいります。

③既存支部の総会や各支部の会合等に積極的に出席しています。これまでに、青森県支部(7月25日)、静岡県支部(8月18日)の会合に参加しました。この後、神奈川県支部、大分県支部(2月9日)への参加を予定しています。

④学科や専攻・選修等、サークル等の卒業生で組織されている既存の諸同窓会組織との連携を図るための事業を検討しています。会員の皆様の情報等をお知らせくださいますようお願いいたします。

⑤卒業・修了予定学生への配布物作成

昨年に引き続き、「卒業生・修了生のみなさんへ」(既存支部紹介)という案内パンフレットを配付するとともに、記念品(辟雍会の名称入りボールペン)を贈呈する予定です。

(組織部長 二宮修治)

事業部

事業部は、次の活動を行っています。

1 学生のキャリア支援事業

学校教育系学生の近県学校訪問(埼玉10/11、東京公立小10/15、東京公立中10/12、東京私立10/4、神奈川10/9)

2 会員支援事業

法律ゼミの活動記録の出版

3 ホームカミングデー主催事業

本学宇宙地球科学分野准教授の佐藤たまき氏による講演会「恐竜時代の地球」を開催予定

4 キャンパス環境充実支援事業

岡山県支部協賛による、ご当地桜・県木「醍醐桜と県木の松」の苗木の移植



photo: 井上録郎/Rokuro Inoue

「緑の中の語らい」

あとがき

社会のグローバル化が進む中で東京学芸大学もそれに対応して変わりつつあります。さらに避けられない少子化の動きの中で、大学が求められる教育課題は大胆な組織改編に及ぶものとなっています。しかし、構内の豊かな樹木は変わることなく学生に潤いを与え、英気を養い続けています。

『辟雍』第15号をお届けします。今号は、卒業生の活躍ぶりに加えて、本会事務所周辺の庭園について、当時、造園を手掛けた三上常夫氏を訪ねて馬淵会長がインタビューしました。そこで、大変貴重な情報をいただきました。掲載記事は後世に残すべき資料となっています。

本誌だけでなくホームページもご覧いただき、会員相互のつながりをより深めてくださると幸いです。

小澤一郎

発行人	馬淵貞利
編集人	小澤一郎
編集協力	中西 史 小柳知代 井上録郎 白木信子
デザイン	門馬 純
印刷所	(有) サンプロセス

東京学芸大学辟雍会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

20周年記念飯島同窓会館2階

TEL/FAX 042-321-8820

E-Mail hekiyou@u-gakugei.ac.jp

ホームページ www.hekiyou.com

Photo:Noriko Watanabe



学士ネコ「前髪ちゃん」
飯島 和庭園にて



HEKIYOUKAI

辟
雍

2018年 第15号

東京学芸大学辟雍会機関誌



「辟雍」第15号 東京学芸大学 全国同窓会 辟雍会機関誌
Copyright © 2018 Hekiyokai All Rights Reserved.

www.hekiyou.com